ベトナムにおける元技能実習生日本語教師の現状と問題点

Current Situation of and Problems for Former Technical Intern Trainees Working as

Japanese Teachers in Vietnam

西谷 まり

要旨

本稿では、ベトナムの技能実習生送り出し会社で日本語を教える元技能実習生21名を対象に行った20項目の質問紙調査について報告する。調査結果から、日本語の上達を来日目的の一つと考えていた調査対象者は、日本人との交流と日本語の自律的学習を積極的に行い、日本語を習得、帰国後に日本語教師になった流れが見えてくる。元技能実習生日本語教師は、日本での仕事と生活を楽しみ、日本の仕事のやり方を習得し、帰国後は「日本に行ってよかった」「技能実習生制度は良い制度だ」と結論づけていることが明らかになった。しかし、日本語教師としての職場への定着と日本語及び日本語教育方法の向上には課題があることも明らかになった。

キーワード:ベトナム、技能実習生、送り出し会社、日本語教師

1. はじめに

国際交流基金による日本語教育調査 (2018 年 5 月~2019 年 3 月) によれば、ベトナムの日本語学習者は 174,521 人であり、教員数は 1,795 人となっている。最も増加率が高かったのは、国全体の学習者数の約 3 分の 2 を占める学校教育以外のカテゴリであるとされる。以前は日本語教育が実施されていなかった地方部でも技能実習・研修候補者向けの予備教育を行う機関などが確認されており、日本からベトナムに帰国した元技能実習生が地元で機関を設立するケースもあると述べられている。

技術実習生制度は、1993年「技能実習制度に係る出入国管理上の取扱いに関する指針」 (平成5年法務省告示第141号)により、在留資格「特定活動」の一類型として創設された。2016年におけるベトナムからの技能実習生の数は4万人を超え、それまで最多であった中国を抜いて国別では初めて第1位となった。

技能実習制度は、研修終了後、研修で修得した技術等をよりスキルアップできるようにすることが前提となっている。しかし、帰国後に日本で習得した技術を生かして働く者は数少ない。一方、日本滞在中に日本語能力を高め、帰国後に技能実習生送り出し機関で日本語教育に携わる者は多く、技能実習生送り出し機関のほとんどはこうした元技能実習生が日本語教育を担っている。

2. 技能実習生送り出し会社の現状

筆者は1998年からベトナムの日本語教育・日本語教師教育に携わっている。ホーチミン

市の日本語学校において、上級クラスの授業、教師研修を継続的に行ってきた。また、勤務大学の大学院日本語教育専攻の修士課程の学生を引率してホーチミン市及びダナン市の大学で2週間の教育実習指導を行っている。2019年度はサバティカル¹でベトナムに滞在し、技能実習生送り出し会社3社において、ベトナム人日本語教師の研修を担当した。3社の概要と研修内容は以下のとおりである。

① A社 ホーチミン市にある大規模会社²

研修期間:2019年4月~5月、1回180分授業を8回実施した。

研修内容:発音指導のみを行った。

② B社 ホーチミン市にある中規模会社

研修期間:2019年7月と12月、1回3時間~4時間授業を6回実施した。

研修内容:ベトナム人教師の模擬授業と講評会、筆者のモデル授業、授業方法を考える引き出しを増やす、間違えやすい初級文型の使い分け、雑談力の磨き方等

その他に、新人研修の一環として、チャーヴィン省3の S 大学で B 社が提供している初級 講座において、ベトナム人教師の授業見学と筆者の授業を行った。

③ C社 ハノイ市にある大規模会社

研修期間:2019年10月~11月、1回3時間授業を4回実施した。

研修内容:B社とほぼ同様。

3 社の元技能実習生日本語教師らが実際に日本で担っていた仕事は、「水産加工場でひたすら牡蛎の殻むきをしていた」、「お弁当工場でとんかつを揚げ続けたので、もう一生とんかつは食べたくない」、「小さな工場で洗面器を作っていた」といった内容であり、帰国後にステップアップする仕事につく技能は身に着いていない。そんななかで、実習生送り出し会社の日本語教師、営業、事務といった仕事は「いい仕事」と考えられている。自らが日本語を勉強した送り出し会社に戻る場合も多いが、まったく違う会社で働く場合もある。彼らは異口同音に「日本語を教えることが楽しい」、「教師という仕事は尊敬されるいい仕事だ」と語った。一方、ベトナムの大学で日本語専攻だった卒業生はオフィスワークにつく機会が多く、日本語教師になるにしても、大学・中学高校・大手日本語学校で教えることを希望するため、技能実習生送り出し会社で日本語を教えることは稀である。本稿では、元技能実習生日本語教師はどのような目的をもって日本に行き、日本での仕事や生活についてどう感じているのか、技能実習生として日本に行ったことの成果をどのようにとらえているのかを明らか

¹ サバティカル (Sabbatical) は使途に制限がない職務を離れた長期休暇のことである。

 $^{^2}$ 大規模、中規模の別は日本語クラスの数、教員の数等で筆者が判断した。A 社と C 社はクラス数が 20 程度あり、教師の数も 15 人以上であり、B 社はクラス数 10 程度、教師の数は 15 人以下である。

³ チャーヴィン省はメコンデルタ地方に位置する。ホーチミン市から自動車で 4 時間程度の場所にある。

にすることを目的に質問紙調査を行った。

3. 調査の概要

グェン (2013) はベトナム人技能実習生を対象にインタビュー調査を行い、技能実習生を ①出稼ぎ目的、②技術研修目的、③海外に滞在すること自体が目的の 3 つの類型にまとめ ている。技能実習生の日本語習得については、栄 (2016、2019) が中国人技能実習生を対象 に調査を行っている。分析の結果、①研修生の日本語学習において、自分なりに自律学習を 行うことが学習の継続と上達への重要な鍵である。②日本語学習には言語知識の習得以外 にも、研修生活の中のストレスの軽減、精神的自由の獲得、将来への自信を育てるなどの意 義があることがわかったとしている。

今回は、技能実習生送り出し会社2社の元技能実習生日本語教師を対象に、2019年7月から11月にかけて調査を行った。筆者が研修を担当したホーチミン市の送り出し会社A社7名とハノイ市の送り出し会社C社14名、合計21名が対象である。グェン(2013)、栄(2016、2019)を参考に、技能実習の目的、成果等について質問項目を設定した。性別は、女性12名、男性8名、性別の記載のないものが1名である。来日前の日本語力は、日本語能力試験 4 N5レベル 5 が15名、N4レベルが6名であったが、調査時点では、N3合格者が11名、N3レベルが2名、N2合格者が6名、N2レベル1名、N1合格者1名となっている。

調査票は20項目について、「4. とてもそう思う 3. そう思う 2. そう思わない 1. 全然そう思わない」、の4段階で回答してもらった。日本語教育学を専攻するベトナム人大学院生に依頼したベトナム語訳も付記した。回答が記されていない質問項目もあるため、回答を足したものが21名になっていない項目がある。

グェン (2013) は、①出稼ぎ目的、②技術研修目的、③海外滞在自体が目的の 3 つの類型にまとめているが、今回の調査対象者は、①出稼ぎ (Q3: 平均値 3.05)、②技術研修 (Q1: 3.10)、③海外滞在 (Q4: 3.24) ともに平均値が高い。日本滞在中に、仕事 (Q7: 3.24) 及び同僚 (Q8: 3.24) と日本語を話す機会が多くあり、会社以外の日本人とも交流があった (Q9: 3.43)。日本の生活 (Q10: 3.48) と日本での仕事 (Q11: 3.25) を楽しいと感じ、日本に行ってよかったと強く感じており (Q13: 3.70)、技能実習制度は良い制度であると考えている (Q17: 3.52)。

調査対象者は、来日前に日本語を使って働きたい(Q15:3.24)という希望は高かったが、

⁴ N1: 幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。学習時間 900 時間程度。N2: 日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。学習時間 600 時間程度。N3: 日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。N4: 基本的な日本語を理解することができる。学習時間 300 時間程度 N5: 基本的な日本語をある程度理解することができる。学習時間 150 時間程度。

⁵ 実際に日本語能力試験を受験して合格してはいないが、そのレベルに達しているという自己申告については「 $N \times \nu$ ベル」とした。

日本語教師になりたいとはあまり思っていなかった(Q16:2.50)。そして、技能実習の成果を日本語(Q19:3.43)と日本的仕事の方法(Q20:3.67)の習得だと強く認識していることが明らかになった。

表1 各項目の平均値と分布

平均	標準	4	3	2	1
値	偏差	(人)	(人)	(人)	(人)
3.10	0.77	6	12	2	1
3.19	0.98	10	7	2	2
3.05	0.92	7	10	2	2
3.24	0.70	8	10	3	0
2.38	0.92	3	5	10	3
2.40	0.89	3	6	9	3
3.24	0.70	8	10	3	0
3.24	0.83	10	6	5	0
3.43	0.68	11	8	2	0
3.48	0.60	11	9	1	0
3.25	0.79	8	10	1	1
1.67	0.73	0	3	8	10
3.70	0.47	14	6	0	0
1.33	0.48	0	0	7	14
3.24	0.83	9	9	2	1
2.50	1.05	4	6	6	4
3.52	0.68	13	6	2	0
3.10	0.89	8	8	4	1
3.43	0.60	10	10	1	0
2.67	0.49	1.4	7	0	
3.67	0.48	14	1	U	0
	值 3.10 3.19 3.05 3.24 2.38 2.40 3.24 3.24 3.43 3.48 3.25 1.67 3.70 1.33 3.24 2.50 3.52 3.10 3.43	値 偏差 3.10 0.77 3.19 0.98 3.05 0.92 3.24 0.70 2.38 0.92 2.40 0.89 3.24 0.70 3.24 0.83 3.43 0.68 3.48 0.60 3.25 0.79 1.67 0.73 3.70 0.47 1.33 0.48 3.24 0.83 2.50 1.05 3.52 0.68	値 偏差 (人) 3.10 0.77 6 3.19 0.98 10 3.05 0.92 7 3.24 0.70 8 2.38 0.92 3 3.24 0.70 8 3.24 0.70 8 3.24 0.83 10 3.43 0.68 11 3.25 0.79 8 1.67 0.73 0 3.70 0.47 14 1.33 0.48 0 3.24 0.83 9 2.50 1.05 4 3.52 0.68 13 3.10 0.89 8 3.43 0.60 10	値	値 偏差 (人)

次に、日本語を使った仕事及び日本語教師の仕事の希望に関する Q15、Q16 と、日本語 と日本の仕事方法の習得に関わる Q19、Q20 と全質問項目との間のピアソンの相関を表 2 に記した。太字は相関が比較的高い、+-0.4 以上の値である。

質問項目	Q15	Q16	Q19	Q20
1.日本に行く目的は日本の技術を勉強するためだった。	.43	.19	20	05
2.日本に行く目的は日本語がもっと上手になるためだった。	.62	.28	06	.04
3.日本に行く目的はたくさんお金を稼ぐためだった。	34	49	04	.15
4.日本に行く目的は外国生活を体験するためだった。	02	31	02	20
5.日本での仕事はベトナムで予想していた仕事と違った。	32	05	40	38
6.日本での仕事は体力的にとてもつらかった。	61	54	16	08
7.日本で仕事の時にたくさん日本語を話した。	.33	.11	.10	.25
8.日本で仕事の同僚とたくさん日本語を話す機会があった。	.49	.32	.39	.33
9.日本で会社の日本人以外の日本人とも交流があった。	.25	.15	.51	.31
10.日本の生活は楽しかった。	.56	.37	.38	.57
11 日本での仕事は楽しかった。	.30	.23	.08	.21
12.技能実習をするためでなく留学生として日本に行きたかった。	.14	.24	23	33
13.日本に行ってよかった。	.11	18	.26	.44
14.日本に行かずにほかの国に行けばよかった。	.04	21	17	14
15.帰国したら日本語を使う仕事をしたいと思った。	1	.60	.19	.08
16.帰国したら日本語の先生をしたいと思った。	.60	1	.08	15
17 技能実習制度はベトナム人にとって良い制度だ。	.12	.07	.16	.41
18.また日本に働きに行きたい。	.31	.48	18	.19
19.日本に行って一番良かったのは日本語の習得だ。	.19	.08	1	.69
20.日本に行って一番良かったのは日本的仕事の方法を習得したことだ。	.08	15	.69	1

表 2 Q15、Q16、Q19, Q20と全項目の相関係数

Q15「帰国したら日本語を使う仕事をしたいと思った」と最も相関が高いのは Q2「日本に行く目的は日本語がもっと上手になるためだった(0.62)」である。続いて、Q16「帰国したら日本語の先生をしたいと思った(0.60)」、Q10「日本の生活は楽しかった(0.56)」、Q8「日本で仕事の同僚とたくさん日本語を話す機会があった(0.49)」となっている。

次に、Q 16「帰国したら日本語の先生をしたいと思った」については、Q 15 (0.60)、Q 18「また日本に働きに行きたい (0..48)」である。Q 2 の来日目的が日本語の上達との関係は、相関係数が 0.3 以下であまり高くない。以上の結果から、来日前に日本語の上達を目的と考えていた調査対象者は、帰国後に日本語を使った仕事をしたいと考える傾向が強いことがわかる。

Q 19「日本に行って一番良かったのは日本語の習得だ」は、Q 20「日本に行って一番良かったのは日本的仕事の方法を習得したことだ(0.69)」、Q 9「日本で会社の日本人以外の

日本人とも交流があった (0.51)」との相関が高く、Q 20 は、Q 19 (0.69)、Q 13 「日本に行ってよかった (0.44)」、Q 17 「技能実習制度はベトナム人にとって良い制度だ (0.41)」となっている。この結果から、日本語の習得と日本的仕事方法の習得は、密接に結びついていることが見て取れる。また、日本的仕事方法の習得を一番の成果と捉えている調査対象者は日本に行ってよかった、技能実習制度は良い制度だと捉えている傾向が高い。

帰国時の日本語レベル $(N1\cdot N2)$ レベル 9 名、N3 レベル 12 名)との関係を表 3 に記した。 t 検定の結果有意差(有意確率 0.05 以下)及び有意傾向(有意確率 0.10 以下)が見られたのは 4 つの項目だった。来日前の日本語力についても分析を行ったが有意差が見られる項目はなかった。

質問項目	日本語	t 値	亚拉德	標準
	レベル	(有意確率)	平均値	偏差
5. 日本での仕事はベトナムで予想していた仕事	N2.N1	-1.72	2.00	0.71
と違った。。	N3	(0.10)	2.67	0.98
9. 日本で会社の日本人以外の日本人とも交流が	N2.N1	2.25	3.78	0.44
あった。	N3	(0.04)	3.17	0.71
12技能実習をするためでなく留学生として日本	N2.N1	-1.93	1.33	0.50
に行きたかった。	N3	(0.07)	1.92	0.79
19. 日本に行って一番良かったのは日本語の習得	N2.N1	2.64	3.78	0.44
だ。	N3	(0.02)	3.17	0.58

表3 帰国時の日本語レベル

「会社の日本人以外の日本人とも交流があった」「日本に行って一番良かったのは日本語を習得したことだ。」については、日本語力の高いグループの平均値が有意に高かった。日本人との交流が多かったので日本語が上達したという可能性があり、日本語上達の達成感も高いことが予測される。「日本での仕事内容が違った」「留学生として日本に行きたかった」の2項目は日本語レベルの低いグループの平均値が高く有意傾向が見られるが、平均値自体は高くない。

日本滞在時に地域の日本語教室等に通った 6名とその他の 15名との比較では、帰国時の日本語能力に差はなかった。さらに、来日前に日本語レベルが N4 だった 5名と N5 だった 16名のグループで帰国後の日本語力を比較したが、こちらにも有意な差は見られなかった。

4. 元技能実習生日本語教師に対する調査結果のまとめ

調査結果から、日本での技能実習を経て、ベトナムの実習生送り出し会社で日本語を教えている教師たちは、1つの目的から技能実習生として来日するという選択をしたわけではな

く、出稼ぎ、技術研修、海外滞在及び日本語の上達という目的を同時に持っていたことが明らかになった。彼らは日本での仕事と生活、及び1能実習の制度を肯定的に捉えており、日本語と日本の仕事方法の習得を技能実習の高い成果と考えていることもわかる。

元技能実習生は4か月から長くても6か月間、初級日本語を勉強し、働く企業が決まると順次来日する。今回の調査でも、N5レベルが15名と最も多く、日本語教師として働いていている調査時点でも、N3に合格者とN3レベルが過半数を占める。N5レベルで来日して、ほとんどが独学で帰国時にはN3レベルになっているのは、毎日のように時間を作って日本語学習に励んできた成果である。日本語学習を続けてN2合格者6名、N1合格者1名という事実もある。今回の調査対象者は、会社や地域の日本語教室のサポートを受けた人は6名だけだったが、日本滞在中、全員が日本語を自習していた。毎日学習していた人、週6回、週5回学習していたと回答した人も多い。調査対象者の来日目的、日本滞在中の感想と日本語の上達のために行った行為、本人たちが成果と捉えていることと達成感について図1にまとめた。

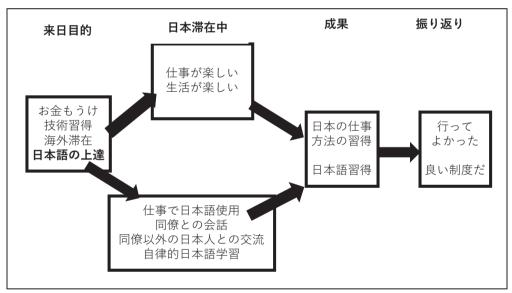


図1 調査対象者の来日から帰国までのプロセス

日本語の上達を来日目的の一つと考えていた調査対象者は、日本人との交流と日本語の 自律的学習を積極的に行い、日本語を習得、帰国後に日本語教師になった流れが見えてくる。 元技能実習生日本語教師は、日本での仕事と生活を楽しみ、日本の仕事のやり方を習得し、 帰国後は「日本に行ってよかった」「技能実習生制度は良い制度だ」と結論づけている。

5. 技能実習生送り出し会社の問題点

次に、元技能実習生の日本語教師が抱える問題点について述べる。その前に、ベトナムの日本語教育現場が抱える教師不足の現状全般について触れておく。ベトナムの大学、日本語学校は教師不足が問題となっている。教師は尊敬される仕事であるが、日本企業で働けば給与も高く、稀に日本出張の機会もある。また、ベトナムの大学では日本語学部を卒業してすぐに母校日本語学部の授業を担当し、数年間働いたあとで、日本に留学して修士号を取得することが求められる。よって、転職、留学などを理由に学校を離れるベトナム人教師が毎年のように出てくる。日本人教師も恒常的に不足している。技能実習生送り出し会社もベトナム人教師の離職は多い。2019年7月に研修を行ったB社で12月に再度研修を行ったところ、すでに数名が退職していた。チャーヴィン省において、筆者が授業見学とフィードバックを行い、会社の期待を背負っていたし女性新人教師も既に退職していた。

調査対象者が技能実習生として携わった職種は、溶接、機械加工、鋳造、プラスチック成型、プレス、食品、縫製等、日本語力がN5レベルで来日しても仕事ができたものであった。しかし現在受け入れが始まった介護の技能実習生は、N3レベルの日本語試験に合格後の来日が求められる場合が多いため、送り出し会社で中級レベルの日本語を教えなければならない場面も出てきている。元技能実習生は日本語教授法を習ったことがなく、自らが日本語を勉強した体験と、入社して1、2週間の先輩教師の授業見学を経て、クラスを任されることになる。日本人教師の発音を聞く機会、助言や指導を受ける機会は少ない。筆者が教師研修を行った3社のうち、A社の日本人教師は最も多く5名であるが、B社は1名、C社は2名であった。発音にベトナム人特有の癖がある教師が多いため、A社のベトナム人校長からは、「教師研修は発音指導を」と依頼を受けた。

教師の入れ替わりが激しい点も、元技能実習生日本語教師のレベルアップが困難な原因の一つである。定着が難しい一因は待遇であるが、教師自身のレベルアップを図る機会が少ないことも大きな理由であると思われる。今回の調査対象者や教師研修対象者からは、「みんなの日本語」の同じところを教え続けることに飽きてしまった、毎日授業が多く、新しいことを考えたり勉強したりする時間がないという声があった。

6. おわりに

ベトナムにおける日本語学習者及びベトナム人日本語教師の多くが、技能実習生送り出し機関に属していること、コロナ禍は技能実習生の来日のみならず実習期間を終えた人々の帰国まで難しい状況を招いていることは日本国内ではあまり知られていない。多くの技能実習生は来日のために借金を背負う。在ベトナム日本国大使館のホームページには、技能実習生から徴収できる費用として「3年契約の場合には3600USドル以下、約520時間の日本語教育に対し、事前教育費として590万ドン(約3万円)以下」と記載されているが、

実際には 100 万円以上を送り出し会社に支払うことも珍しくない。また、来日後に原則、 仕事場を替えることはできないので、劣悪な労働環境でも働き続けるしかないため、国際社 会からは奴隷労働という批判も受けている。

日本の農業や水産業及び中小企業の人手不足、介護を担う人材の不足が継続、悪化していくなかで、今後数年間は技能実習生の来日は続くことが予測されるため、送り出し側及び受け入れ側の問題点を解決することは喫緊の課題である。帰国した元技能実習生が日本語教師として次の実習生を教えるという構図も維持される可能性が高いが、実際に技能実習生の経験がある人々が送り出し側で日本語教育に携わることで、送り出し体制の改善、また、送り出し人材の質的向上に貢献しうると考えられる。どのような職種であれ、N3レベルまで1年間の日本語教育を基本としている送り出し会社も存在する。N3レベルで来日すると、日本語の自律的学習が比較的容易であり、帰国時にはN2、N1に合格して日本企業に就職する元実習生も多い。これは、日本語学校留学生にもあてはまる。日本語学校に2年間通ってN3に合格しないベトナム人学生も多数いるなかで、N3レベルで来日した者は比較的短期間にN2、N1レベルに到達し、進学、就職を果たしている(西谷 2018)。

技能実習生送り出し会社の日本語教師の日本語力および教授能力を向上させることは重要な課題である。母国ベトナムにおける技能実習生の日本語教育期間の延長及び、元技能実習生日本語教師の研修の充実が望まれる。

参考文献

栄苗苗(2016)「日本語が上達した中国人研修生の日本語学習アプローチ」『阪大日本語研究』 28、pp.143.-163

栄苗苗 (2019)「中国人技能実習生の日本語学習アプローチ: 日本語能力試験の N1、N2 に合格していない人に焦点を当てる」『阪大日本語研究』 31、pp.49:72

グェン・ティ・ホアン・サー (2013)「日本の外国人研修制度・技能実習制度と ベトナム人研修 生」『佛教大学大学院紀要 社会学研究科篇』第 41 号、pp.19·34

西谷まり (2018) 「ベトナム人日本語学校留学生が就職に至る経路」『日本教育工学会研究報告会』JEST18-24、pp.163-168

日本語能力試験 JLPT https://www.jlpt.jp/ 2021年3月22日閲覧

平成 29 年度日本語教育実態調査の結果

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/nihongo/nihongo_87/pdf/r1408 014_11.pdf 2021 年 3 月 15 日閲覧

在日本国大使館ホームページ https://www.vn.emb-

japan.go.jp/itpr_ja/ginoujisshuusei_tesuuryou_jougen.html 2021 年 3 月 15 日閲覧

(にしたに まり 一橋大学国際教育交流センター 教授)